防衛大学校本科第４７期及び理工学研究科第３８期並びに総合
安全保障研究科第３期学生入校式における防衛大学校長式辞
（平成１１年４月５日）

第6代学校長　松本　三郎

本日、防衛大学校本科第４７期学生４７９名、理工学研究科第３８期学生７３名、総合安全保障研究科第３期学生１８名の諸君を迎え、入校式を挙行するに当たり、浜田防衛政務次官[注(1)]をはじめ多数の来賓の御臨席をいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。また、全国各地から御臨席をいただきました御両親、御家族の皆様方に対しましても、お礼申し上げるとともに、御子女の栄えある入校を心よりお祝い申し上げる次第であります。

本科入校の新入生諸君、諸君は多数の受験生の中からめでたく難関を突破し、本日の入校式に参列されました。心からお祝い申し上げるとともに、諸君が自らの意思で、祖国日本の防衛に献身するの気概を秘め、希望に胸をふくらませつつ、この小原台キャンパスの一員となられたことに衷心より敬意を表し、在校の教職員、学生諸君とともに、大きな喜びをもって歓迎するものであります。

また、タイ王国からの５名に加え、本年より新たに本校で学ぶこととなったモンゴル国から３名及びヴェトナム社会主義共和国から２名の留学生諸君に対しましても、祖国を離れ本校に学ぶその勇気と意欲を讃え、心から歓迎の意を表します。

防衛大学校は本年創立４７年を迎えます。昭和２８年４月、朝鮮戦争の未だ続く中、わが国の独立と平和を恒久的に守り抜くには自衛隊幹部の育成が不可欠であることを痛感した当時の吉田茂首相の決断により、初代学校長に槇智雄先生を迎えて本校は創立されたのであります。将来の幹部自衛官を目指して意気軒昂（けんこう）の第１期生４００名が入校、爾来今年

注(1)　浜田靖一

３月の第４３期生までに１万９千名に及ぶ卒業生を送り出して来ました。これら先輩達が、これまでわが国の平和と安定に果たしてきた目覚ましい貢献については、諸君もよく御承知のことと思いますが、そうした先輩達の偉業を受け継ぐべく、またその期待を担って、諸君は今日ここに本校の一員となりました。「初心忘れるべからず」と言います。本日の新鮮な緊張感と意気込みをいつまでも忘れずに大切に心にしまっておいて下さい。

さて、このように、防衛大学校は、将来、陸・海・空各自衛隊において活躍すべき幹部自衛官を育成するために存在しております。それ故に、本校の教育は、他の一般大学と共通なものを多く持ちつつも、併せて他の大学には見られない様々の特色を有します。諸君は、この防衛大学校に学ぶ意味を日常生活の中で絶えず問いかけ、決意を新たにしつつ、これからの４年間、大いに研鑽努力されることを期待しています。

本日の入校に当たり、私は徳育・知育・体育に係わる次の三点について諸君に要望致します。

まず第一は、本校教育における徳育の重要性についてであります。将来の幹部自衛官を育成する本校においては、全学生の規律正しい団体行動が学生生活の根幹をなしております。このため諸君は、入校と同時に全員校内の学生舎で４年間の団体生活を送ることになります。先輩後輩達と、あるいは同期の友人達と日常的に生活を共にするこの体験は、諸君が、将来多くの部下を指揮統率する幹部自衛官としてふさわしい資質を養成する上で、極めて大切なことであります。新入生諸君にとっては、規律ある団体生活を営むということは、これまでの生活環境と異なるところから、当初は戸惑う者がおるかも知れません。しかし、諸君の先輩達はみな、それを克服して大きく成長してきたのであります。

諸君に期待するのは、素直な気持ちでこの団体生活に飛び込み、早くその雰囲気に馴染むことです。人間教育は模倣に始まると言います。先ずは、指導教官の指示に従い、上級生の生活姿勢を見習い、自らの実践を通じて正しい躾を身につけ、防衛大学校学生たるにふさわしい容姿、態度の持主となって下さい。この４年間の小原台の生活を通じ、裾野の広い、奥行きの深い、徳操豊かな人間形成に努められるよう、諸君の自主積極的な向上心を強く期待しております。

第二に、諸君は学生らしくしっかりと勉学に励まねばなりません。先進諸国における今日の士官候補生教育は、一般大学生と同等以上の知的水準の達成をその目標としておりますが、我が防衛大学校におきまして

も、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系、人文社会科学系の教育を中軸に、それに更に本校独特の防衛学の教育を加えた充実した学業内容を有しております。防衛大学校の教育方針に「広い視野を開き科学的思考力を養う」とありますが、将来予測される厳しい内外情勢の変化に的確に対応できる有能な幹部自衛官となるためには、人文・社会・自然科学の各分野にまたがる幅広い学識の上に立つ豊かな創造力と国際感覚の持主でなければ通用しない時代となっているということを銘記すべきであります。諸君は、優れた教授陣を擁するこの防衛大学校において、これからの４年間、幹部自衛官としての資質・技能を練磨するとともに、単に知識を吸収するだけでなく、常に「自ら問題を発見し、その解決策を考える。そして考えた結果を実行し、その責任は自らが負う」という自主自律の積極的姿勢の下で生きた学問の研價に努め、将来の大成を期していただくことを切望するものであります。

第三に、諸君は体力、気力の錬成に励まなければなりません。幹部自衛官たるには、いかに知力が優れていても、強健な体力と旺盛な気力がなければ、困難な伏況下にあって、冷静な判断力、沈着な行動力、優れた統率力を発揮することができません。一般大学と違い、本校において訓練や体育が特に重視される理由であります。

防衛大学校では、更に教育方針の一つとして学生全員の参加する校友会活動を奨励し、校友会の下に数多くの運動部や文化部があります。諸君は、これら各部の活動に積極的に参加し、心身を鍛え、豊かな情操を養い、文武両道に秀でた立派な自衛官としての素地を培っていただきたいと思います。これらの活動を通じ、喜びや悲しみを共にしつつ小原台で流した青春の汗は、必ずや先輩後輩、そして同期生の絆を固め、豊かな人間関係を育くみ、また諸君にとって生涯忘れ難い思い出となるでありましょう。

「光陰矢の如し」と言われる如く、大学時代は長いようで案外早く過ぎ去ってしまうものです。一日一時間を読む者と読まざる者、一日一時間体力、気力の鍛錬に励む者と励まざる者との差は、年とともに大きく埋め難いものとなります。長い人生の中でもとりわけ貴重な青春時代の４年間をどう使うかで、その人の将来は大きく左右されます。本校建学の理念ともいうべき「真の紳士淑女にして、真の武人」の道を目指して、諸君が充実した悔いのない学生生活を送られるよう強く望む次第です。

次に、理工学研究科及び総合安全保障研究科に入校された諸君　－ 理工学研究科にはインドネシア共和国から１名、大韓民国から３名、タイ

王国から２名、ヴェトナム社会主義共和国から１名の留学生及び部外民間からの入校者２名が、また総合安全保障研究科には部外民間からの入校者１名が含まれておりますが－　諸君に申し上げます。諸君がこの度、特に選抜されて、本校の研究科において、高度の先端科学技術乃至は高度の安全保障の理論と政策の研究に専念する機会を与えられたことを、心からお喜び申し上げます。

御承知のように、現在世界の各国は、競って科学技術の向上を図り、防衛力の近代化に努めておりますが、科学技術の立ち遅れが国家の安全保障に由々しき影響を及ぼすことに思いを致すとき、わが国将来の防衛関連の科学技術の向上は必須の条件であり、理工学研究科に学ぶ諸君の若い頭脳に期待するところ誠に大きいのであります。

また一方では、２１世紀を目前にした今日、わが国はその安全保障のあり方を多角的、かつ学際的、総合的に分析・研究し、政策を立案する必要を強く求められています。一昨年わが国初の総合安全保障研究科が本校に創設されたのは、正にそうした国家的要請に応えるためであり、同研究科の第３期生として入校された諸君は、先輩達に続き「自我作古（我れより古を作る）」の気概をもって、新研究科の成果を世に示すべく励まねばなりません。

今日まで諸君の多くは、第一線における自衛隊の各種部隊、艦船、各機関等にあって、また一部の諸君は民間等の職場にあって、それぞれ多忙な日常の任務に就かれ、学問の道に遠ざかることを余儀なくされていたことと思います。しかし幸いにして諸君は、本研究科において今一度学究生活に入る好機を得られたわけです。過去において修得された基礎と経験を踏まえつつ、未知の領域に挑戦し、創造的姿勢でより高度の科学的研鑽に励まれ、将来大成される基礎を固められるよう期待しております。

時あたかも桜花爛漫たる春の季節を迎え、遠く西に白雪に輝く富士を望み、青き海原を眼下に収めるここ小原台上において、祖国防衛という崇高にして遠く遥かな使命に向けて、正に第一歩を踏み出さんとする諸君のこれからの健闘を心より祈り、私の式辞と致します。

諸君、入校おめでとう。